第９２回全国書画展覧会　審査長　紹介

書 写 の 部

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官

豊　口　和　士　　先生

画　の　部

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官

小　林　恭　代　　先生

第９２回全国書画展覧会「書写の部」の審査を終えて

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官　豊口和士

第９２回全国書画展覧会「書写の部」に出品されたすべての児童・生徒の皆さんの出品に向けてのご努力を讃えます。そして、見事受賞された皆さん、本当におめでとうございます。ご指導に当たられた先生方、ご支援くださったご家族の皆様におかれましてもお喜びのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。

審査を通しまして、どの出品作品からも日頃の学習の成果が確かに見て取れ、皆さんが熱心に学習し作品制作に取り組まれているご様子や思いが伝わってきました。

ＩＣＴ機器や人工知能ＡＩの活用が生活の中で広く浸透してきている今日、手書き文字の役割について端的に言えば、より豊かに他者と関わることと考えてよいでしょう。情報を正確に記録したり伝えたりするだけであれば、活字の方が有用です。しかし、私たちは手書きされた文字や言葉に対して、単にそこに記録された情報内容を受け取るだけでなく、活字では伝えきれない書き手の思いや気持ちを感じ取り、共有することができるのです。特に毛筆で手書きされた文字や言葉は、その多彩な表現性と美により、さらに豊かに伝えることができます。その価値が長きにわたって日本社会で共有され続け、今日に至るまで日本の伝統・文化として継承されてきました。皆さんにも、書写・書道を学ぶことを通して、毛筆で書かれた文字や言葉の価値や魅力を味わいながら、今後の生活の中で、自分自身と向き合い、自分自身を豊かに伝えていってほしいと思います。

本年度の内閣総理大臣賞「美しい自然」、文部科学大臣賞「平和」、「若緑」は、学校教育における書写の学習の成果がそれぞれの学年に応じて確かに発揮され、毛筆で書くことの喜びと豊かさに満ちています。審査に当たっては、文字構成と全体構成、用筆・運筆の正確さ、点画のつながりや筆脈の流麗さ等に特に注目しますが、上記の３作品はそれらの点で際だって優れていました。出品に当たっては、字形を整えるだけでなく、言葉を書いている意識を持って、運筆、点画のつながりや筆脈を大切にしてください。

小学生の皆さんは、毛筆による書写の学習を通して感じたことを生かして、普段の生活の中でも硬筆で文字を正しく整えて、丁寧に書くことを心がけてください。中学生の皆さんは、目的意識・相手意識を持って、豊かに伝えるために効果的に書くことを心がけ、身の回りの多様な表現や文字文化の豊かさに関心を持ち続けてください。

最後に、全国書画展覧会の運営に尽力された皆様に敬意を表するとともに、本展覧会が日本の伝統と文化の継承と理解の推進に益々寄与され、子供たちの確かな成長と我が国の「文字文化」ならびに「芸術文化」の進展にさらに大きな役割を担うべく、一層発展されることを祈念いたしまして審査講評といたします。

全国書画展覧会（絵画の部）の審査を終えて

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官　小林恭代

今年も、たくさんの作品と出会うことができました。審査に当たっては、一人一人の表したい思いを想像しながらじっくりと見ていきました。「こんなことが楽しかったよ」「今夢中になっていることはこれだよ」「こんなことを感じたよ」と、絵が語りかけてくるようでした。児童・生徒の皆さんの努力と、先生方のご指導、ご家族の励まし、大会運営に携わった皆様のご尽力に、心より感謝申し上げます。

昨年から、生成ＡＩが話題になっています。いくつかのプロンプト（指示や質問）を入力すると、絵を描いてくれるものもあります。本物そっくりなものから、〇〇風と、さまざまな要求に応えてくれ、しかもあっという間にできるのです。とても便利になったと思うと同時に、では、人が絵を描く意味はなんだろうと、改めて考えさせられます。

絵に表すことを通して、皆さんは様々な力を身に付けています。例えば、自然の美しさに感動したり、人とのふれあいに温かさを感じたりするなど、さまざまなものや出来事を心に感じ取る力。「こうなったらいいな」「こんなことをしてみたいな」と、豊かに想像する力。自分が表したいことを見付ける力や、どうやって表していくか考える力。表したいことに合わせて材料や用具を使う力や、表し方を工夫して表す力。うまくいかないときでもあきらめず、粘り強く最後までやりきる力などです。コンピューターは、体がありませんから、実際の経験から感じることはできません。自分の思いをもとに表現することは、人間だからできること、そして心豊かなことでもあるのです。

どうぞこれからも、自分らしさを大切にし、絵に表すことを楽しんでいってください。次に、様々な力を働かせて表された作品を３点紹介します。

（１）内閣総理大臣賞　「揺蕩う」

中央に描かれている少女は作者自身とのことですが、その足は蛸になっており、髪は海藻のようにも、炎のようにも見えます。周りには、覗きこむような表情のリュウグウノツカイ、色彩が反転した苺、重ねられた食器が配され、更に不思議な世界をつくりだしています。これら１つ１つが、今の自分が感じていることを伝えるものとなっているのでしょう。「揺蕩う」という題名からも、作者の揺れ動く心情が伺えます。自己の心を見つめて深く考え，強く表したいことを心の中に思い描き，主題の中心となるものや表す形や色彩などを整理して、構成を工夫して表したことが伝わってきました。

（２） 文部科学大臣賞　小学生の部　「かぞくでいったうみ」

家族で楽しく、海で遊んだ思い出を描いています。ザブンと寄せては返す波の動き、しぶきが飛び散る様子は、実際に海に入った時のことを思い出して表したのでしょう。５人並んでいる兄弟の表情も様々ですね。その様子を見ているお父さんお母さんの表情もあたたかで、幸せな気持ちにしてくれます。自分の感じたことや、楽しかったという気持ちを大切にして、表し方を工夫して表すことができました。自分で表したいことを見付けるということは、表現の原動力となります。これからも、様々な出来事から、豊かに感じ、表すことを楽しんでほしいと思います。

（３） 文部科学大臣賞　中学生の部　「停留する船」

夕暮れ時でしょうか。停留する船は青みを帯びて静かに佇み、夕日の色が美しく漁港を照らしています。対象を捉える確かな目、一つ一つを丹念に表す技能はもとより、その風景の背景にある人々の思いや暮らしにも目を向けていた佐藤さんの作品は、見る人に様々なことを訴えてきます。対象や事象を深く見つめ，そのものの本質について感じ取ることは、表現においてとても大切なことです。今後も、心豊かに表現することを続けていってほしいと願っています。

今回の審査を通して、児童・生徒の皆さんが、絵に表すことで様々な思いを伝えてくれたことを大変うれしく思いました。

自分の表したいことを見付け、表し方を工夫して表すということは、絵のみに限らず、生きていく上でこれからも大切になっていく力です。自分の身体を通して感じたこと、想像力を働かせて思い描いたことを、のびのびと表現できることが大切であると感じます。引き続き、先生方には子供の思いを受け止め、つくりだす喜びを大切にしたご指導をお願いいたします。また、家庭、地域の皆様には、引き続き学校教育活動に一層のご理解をいただき、連携を深めていただけたらと思います。

最後に、「全国書画展覧会」の一層のご発展を祈念いたしまして、審査講評といたします。